

## 1年 算数科研究授業のまとめ（10月27日）

### 1 単元名及び単元の目標

ひきざん（1／13本時）

- ◎ 11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算の仕方を考え理解し、確実にできるようにするとともにそれを用いることができるようにする。

### 2 本研究授業の提案について

本時では、繰り下がりのある減法の計算の仕方を理解させるために、以下の二つについて提案を行った。

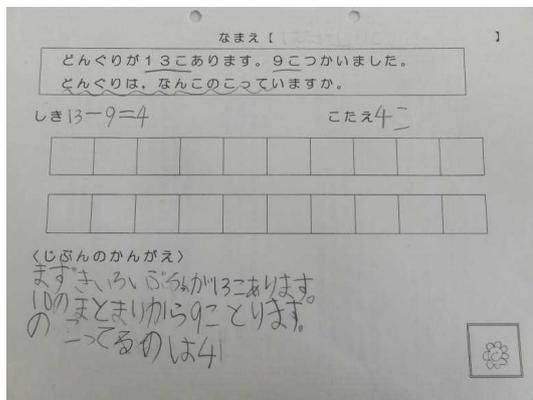
- (1) 本時は、 $13-9$ という繰り下がりのある減法計算の第1時目で、どこからどのように9をひいて答えを出すかを考える授業であった。計算の仕方を考えさせる際に、ブロックを動かす操作活動を取り入れ、どこからいくつ引くのかを視覚的に捉えさせるようにした。実際にブロックを動かしながら考えたことにより、児童は落ち着いて課題に取り組むことができた。本時では、①13から1つつ引いていく数え引き、②9を3と6に分けて13から3を引いて10から6を引く減減法の考え方、③13のうちの10から9を引いて残りの1と3を足す減加法の考え方が出た。まとめの段階で無理に減加法に絞り込まず、児童の考え方を認め、次時で焦点化・共有化していく方法をとったことは、自然な思考の流れとなり有効であった。

- (2) 操作活動によって考えた計算の仕方をワークシートに書かせることにより、思考の過程を友達や担任が分かるようにした。ほとんどの児童が、これまでに学習してきた「はじめに、13個あります。」「ブロックを○個動かします。」「残りは△個です。」といった説明をワークシートに書き込んでいた。（資料1参照）

ペア学習では、友達の説明について3段階で相互評価させた。それが児童の意欲付けにもつながり、児童は分かりやすく説明しようと努力していた。聞く側も真剣に聞き、分かりやすさについて妥当な評価をしていた。

全体発表では、ワークシートと操作の様子を書

画カメラを使って説明させた。その後、児童から出た三つの考え方を板書してまとめた。操作を可視化できるというICTの良さを生かし、思考の跡が残らないという弱点を板書で補うことができ、効果的であった。



【資料1 ワークシート】

### 3 本研究授業の授業技術課題について

- (1) 本時は、普段から算数の授業で進めてきた、①自分で考える、②ペアで考えたことを発表し合う、③全体で話し合っって考えを深める、という進め方を予め示し、その後何をするか具体的な発問や指示を行うように努めた。児童は今何をすればよいか分かり、見通しを持てたことで安心して学習に取り組むことができていた。
- (2) 一人一人の児童の実態をしっかりと見取り、個に応じた支援を行ったり児童の考えを意図的指名につなげたりすることが、授業のねらいにせまるために重要であると考えた。本時では、机間指導で一人一人の考えを見取り、数え引き・減減法・減加法の三つの考え方に分類し、意図的に指名して発表させた。比較的考えやすい数え引きから発表させたことにより、支援が必要な児童も自分の考えを自分なりの言葉で発表することができた。減減法・減加法と進むにつれ、児童は自分の考えとは違う考え方に触れることができ、多様な考え方ができることに気付くことができた。

### 4 今年度の研究授業を振り返って

今年度は、「のこりはいくつちがいはいくつ」及び「ひきざん」の授業を行った。どちらも「数と計算」領域で、算数ブロックを使った操作活動、ワークシートを用いて考える活動、ペア学習や全体での話し合い活動を取り入れた授業を行った。主体的に学習に取り組ませるためには、見通しと振り返りを意識して単元構成や授業を組み立てることが重要であると再認識した。また、ペア学習や全体で話し合うなどの交流や意図的指名が児童の考えを深める上で大変有効であると実感した。今後は、一人一人の実態に合わせた指導や支援についてさらに研究を深めていきたい。